

### 70周年を迎える同窓会



会長 後藤 謙治  
同窓会 玉腰 (11回生)

# 木曾川 高校 同窓会 会報

でご活躍をされておられると聞か  
せて来ています。

この70周年を期に母校同窓会運  
営におきましても皆様のお力をお  
貸しくださいことを期待します。  
本年度232名の同窓会生が入  
会、若い力を頂き活躍される人材  
を更に期待します。

最後に皆様の集まりの場がこれ  
からの情報伝達手段として重要に  
なつてきます。

各卒業年度、年度を越えた同窓  
会員同士の地域交流、クラスを越  
えた交流、各クラブ等あらゆる機  
会で母校木曾川高校を卒業した仲  
間としてより縦横紡いでより絆を  
太くさせていただけますように切  
に望みます。



校長 森 也 司

### 木曾川高校の近況報告

玉腰会長をはじめ、木曾川高等  
学校同窓会会員の皆様におかれま  
しては、日ごろより本校の教育活  
動に対して、あたたかいご支援・  
ご協力を賜っておりまことに、心  
より感謝申し上げます。

本年度は、新型コロナウイルス

**先 恕 剛**  
Be positive  
Be considerate  
Be self-controlled  
進んで為す  
思いやりの心を持ち  
厳しさを求め

発行  
愛知県立木曾川高等学校 同窓会  
〒494-0001  
一宮市開明字榎西11-1  
TEL:0586(62)6155  
FAX:0586(61)6653  
発行日: 2025年3月1日  
発行人: 玉腰 謙治

感染症による活動制限から解放さ  
れ、生徒の活気が戻つてしまし  
た。それと共に、イキイキとした  
姿を目にする機会が格段に増えま  
した。

例えば、部活動においてはバレ  
ーボール(男子・バレーボール選  
手権大会優秀選手賞)やバスケッ  
トボール、ハンドボール部、美術  
部(全国高等学校総合文化祭出  
展)愛知県高等学校総合文化祭  
(アートフェスタ出展)、プラス  
バンド部(吹奏楽コンクール金  
賞、マーチングコンテスト金賞、  
定期演奏会には1500名以上来  
場)など、運動部文化部ともに、  
活発に活動し成果を残していま

他には、9月に実施した文化祭  
では、中学生やその保護者、在校  
生の家族などを含め、昨年度を大  
きく上回る来場者となりました。  
文化祭を土曜に開催し、中学生や  
その保護者にも開放しながら、高  
校生活の一端を知ってもらおう試み  
を続けています。

また、久しぶりにオーストラリ  
アへの短期派遣を実施しました。  
8月17日から25日の8泊9日、ケ  
アンズの語学学校に生徒13名を派  
遣しました。もともと英語が得意  
な生徒ばかりではありません。ま  
た、ネイティブの方と英語で会話  
できるわけでもありません。しか

し、ホームステイをし、ホストフ  
ァミリーと過ごす中で、さらには  
基本的な日本語の使用を禁止され  
る厳しい環境の中で時間を過ごす  
うちに、生徒はたくましく成長し  
ました。

今年、創立70周年を迎えま  
す。長きにわたり本校が存立でき  
たのも、学生時代さらには卒業後  
においても皆様が活躍され、様々  
な場面で尽力された結果であるう  
と思えます。今年、これまでの  
歩みを振り返りながら、新しく大  
胆な一歩を確実に踏み出す重要な  
1年でもあります。「こうすれば  
うまくいく」とか「これが良い人  
生だ」というような「唯一絶対の  
解」は、変化が激しいこの時代に  
は存在しません。その都度自分で  
考え、他者と意見をすり合わせな  
がら、多くの人が納得できるもの  
を見出していく力が必要になりま  
す。そんなたくましく生きる生徒  
を育成すべく努力してまいりま  
す。これまで以上に、同窓会会員  
の皆様方による、あつご支援を  
お願いいたします。

**同窓会支援活動のご案内**

**同窓生に対しての支援**

- クラス会、同期会(同窓会)を交えた合同イベント、
- 部活会、●本校に関係のあることに対し、通信費として5,000円~30,000円の支援をさせていただきます。

※開催の状況報告、お写真のご提出を条件に

**在校生に対しての支援**

**運動文化後援費・学校支援金の支援**  
(留学支援・あしなが支援等)

各支援の内容は同窓会役員、または学校にお問い合わせを。

**木曾川高校  
同窓会  
Instagram**

HISOGAWA.HS.ALUMNI.ASSOCIATI

**同窓会維持協力金のお願い**

本年も例年同様、同窓会員の皆さま方へ1口1,000円、1口以上の同窓会維持協力金のお振込をお願い申し上げます。同封の郵便局、ゆうちょ銀行払込取扱票をご利用ください。ATMご利用で受取手数料(152円)負担が窓口より安く助かります。ご利用ください。

《振込先》口座記号 **00860-3** 口座番号 **112206**  
加入者名 **愛知県立木曾川高等学校  
同窓会事務局**  
※通信欄には、○回生、○年3月卒、とご記入ください。

《ご報告》令和6年度のお振込金額は102名様から、手数料支払後132,808円(令和6年7月9日現在)となっております。ご協力ありがとうございました。

**第67回 愛知県立木曾川高等学校  
同窓会 定期総会**

開催日時 / 令和7年5月末日(日)午前10時  
開催場所 / 未定。3月末に決定します。  
4月11日(金)「ハピなび 一宮」でご案内

総会 / 議案 ①令和6年度事業、決算、監査報告  
②令和7年度事業計画、予算案  
③役員改選 ④その他

懇談会 / 茶話会(同会場)  
参加費 / 無料(申し込み不要、当日お越しください)

# 学校から

## 男子バレーボール部 「勇往邁進」 3年6組 岩田 瑠斗

僕たち男子バレーボール部は「応援されるチームになるためには」がチーム方針で「県大会に出場し、ベスト16」になるという目標を実現する為に日々練習に取り組んできました。僕たちは県大会への切符を掴むためにみんな力を合わせてきました。新チームになりたての頃は、思い通りにプレーが出来ず、練習試合等でも勝てずいました。その時には、チーム内で何がダメだったのかをみんなで話し合い、



改善する為にサーブやレシーブ、スパイクといった基本的な技術をみんな何度か反復練習し、個々の精度を高めました。顧問である瀧木先生にアドバイスを受けチーム全体として、攻撃や守備の役割分担をしっかりと確認し合い、お互いが信頼をし、プレーでできるようにになりました。さらに、試合の中で「仲間を信じる」ということを強く意識しました。特に接戦の試合では、一人一人のミスが大きな影響を与えますが、その中でもお互いに励まし合ったり、支え合うことが重要です。試合の後半でリードを取られた時、チーム全体で「最後まで諦めない」という気持ちを持ち続け、逆転勝利を収めたことがあります。その経験を通じて、チーム全体が一つになった時の力強さを実感すると同時に、チームの大切さ

を学びました。バレーボールが出来る環境を当たり前と思わずに、誰よりも近くで応援し、支えてくれたマネージャーや僕たちの指導してくれた瀧木先生、練習試合の送迎などしてくれた瀧木先生、練習試合の送迎などしてくれた瀧木先生に感謝し、僕たちの目標である「県大会ベスト16」を実現する事が出来ました。僕は引退してしまいましたが、このチームと練習する事は出来ませんが、また県大会に出場してくれたい事を願っています。木曾川男子バレーボール部の皆さん、頑張ってください。応援しています。

## 女子バレーボール部 「軌跡」 3年4組 井田 かの子

「楽しそうにバレーするね」「試合中の雰囲気がいい」これは他校の先生がよく私たちにかけてくださった言葉で、私がキャプテンになってから目標としてきたチームの姿でした。しかしこの言葉をかけていただけのようにならないためにはたくさんの時間がかかりました。新チームになってすぐの頃はミスを上手く切り替えられず自分たちのプレーができないことがチームの弱点でした。勝てるチームにするために自分ができることは何か、考えても分からず部員との向き合い方を間違えてしまったこともありました。それでもついてきてくれたみんなの力があつたからこそ最高のチームを作り上げることが



ができました。だからこそそんなチームのことを誰かに褒めていただく度にとても誇らしい気持ちになりました。これまで様々な困難に直面し、部活ができない期間を多く経験した私たちがからこそ、バレーボールができる時間を大切にしようという気持ちが人一倍強く、その気持ちがプレーへの意識を高め、苦しい場面にも負けない強いメンタルを持てるようになったのだと思います。そして迎えた高校生活最後の大会。私は緊張とは少し違う不思議な感情を抱えていました。これまでの大会や練習試合とは違うもう一回が無い試合、考えただけでもブレッツシャヤーに押しつぶされそうでした。しかしそんな中でもみんなバレーボールができるという当たり前のことが私に幸せを感じさせてくれました。2年間目標としてきた県大会出場という高い壁を超えた瞬間、チームの代表として表彰状を受け取った瞬間、どこを切り取っても私の中で特別な思い出になっています。また県大会出場は部員だけでなく支えてくれた家族や先生方がいてくださったからこそ叶えられたものです。本当にありがとうございます。そして何より、2年間楽しかったことも辛いことも一緒に経験してきた最高の仲間たちに出会い、1つの目標に向かって高め合えたことが私の高校生活において、大切な財産です。

か、どこを治せばいいのか、どういう練習をしたら成長できるのかなど、キャプテンとしてとても考えて悩みました。しかし、とれだけいろいろな練習を考えて実践しても結果にはつながりませんでした。この時同年の部員2人が支えてくれました。2人が支えてくれたことにより何が足らなかったのかを気づくことができました。自分たちに足らなかったのはチームワークでした。新チームのほとんどが1年生で連携というものを練習していません。7人で行うスポーツなのに個人の技だけで戦っていました。練習のときにコミュニケーションからチームワークを取ったりして大会でベスト8まで行くことができました。県大会出場はできませんでしたが、個人プレーが多かった「0」のチームが、チームワークを取ることによって「1」に変化させることができました。しかし、県大会出場はまだ手が届かないとあります。これからの練習は2年生だけでなく1年生とも話し合いをして、互いに高めあい、支え合いこれまでの敗戦を胸に刻んで「0」から「1」に変化させたチームをより変化させ高めれるようにしていきたいと思っています。そのための最後の大会までの期間よりチームワークを高め、チーム一丸となり僕たちの目標達成また県大会へ出場した先輩方を超えて素晴らしい結果を残せるように、そして応援してくださる人たちに感動や興奮する試合を届けられるように頑張っていきたいです。

## 男子ハンドボール部 「10」から「1」へ 2年1組 足立 拓海

僕たち男子ハンドボール部は県大会に出場し、1勝以上するという目標として日々練習に取り組んでいます。僕たちは2年生が三人という少なさで新しく入部した1年生と共に試合に挑むことになりました。1年生には能力のある子が多く「このチームなら勝てる」と思い込んでいました。しかし、現実とは甘くなく初めての大会で初戦敗退という結果に終わってしまいました。この敗戦で何が足りなかったのか、

か、どこを治せばいいのか、どういう練習をしたら成長できるのかなど、キャプテンとしてとても考えて悩みました。しかし、とれだけいろいろな練習を考えて実践しても結果にはつながりませんでした。この時同年の部員2人が支えてくれました。2人が支えてくれたことにより何が足らなかったのかを気づくことができました。自分たちに足らなかったのはチームワークでした。新チームのほとんどが1年生で連携というものを練習していません。7人で行うスポーツなのに個人の技だけで戦っていました。練習のときにコミュニケーションからチームワークを取ったりして大会でベスト8まで行くことができました。県大会出場はできませんでしたが、個人プレーが多かった「0」のチームが、チームワークを取ることによって「1」に変化させることができました。しかし、県大会出場はまだ手が届かないとあります。これからの練習は2年生だけでなく1年生とも話し合いをして、互いに高めあい、支え合いこれまでの敗戦を胸に刻んで「0」から「1」に変化させたチームをより変化させ高めれるようにしていきたいと思っています。そのための最後の大会までの期間よりチームワークを高め、チーム一丸となり僕たちの目標達成また県大会へ出場した先輩方を超えて素晴らしい結果を残せるように、そして応援してくださる人たちに感動や興奮する試合を届けられるように頑張っていきたいです。

## 女子ハンドボール部 「人生笑顔で」 2年2組 浅井 和

私たちが女子ハンドボール部は県大会ベスト4を目指し、縦の関係と横の関係を大切にしながら個で戦うチームではなく、組織で戦うチームになれるよう日々練習に取り組んでいます。しかし、新チームになったばかりの頃は、焦りや迷い、不安そんな気持ちばかりでした。社会に出たらたくさん壁が



あるがそのほとんどを自分で考え、決していかなければならないため、そんな気持ちの中でも、チームの全員が自分ですっきり考え、そうしようというたくさん話し合い、助け合い、失敗を恐れず、時には遊び心をもって少しずつチーム形成をしてきました。また、部活動で選手である前に一人の人間として人間性や社会性をみくため、挨拶をしっかりとし、ごみ拾いをし、靴を揃え、人として当たり前のことを当たり前に出来るように、たくさんこのことを素直に学び、謙虚に努力を続けることで、運がついてきたり、努力や人間性を応援したいと思ってもらえるようなそんな人間、チームになれると思います。そして、そんな人間、チームになりたいです。自分たちがハンドボールをできるのは、応援し支えてくれる家族、指導やサポートしてくださる先生方、同じ目標に向かって頑張ってくれる仲間、たくさん助けてくださる先輩方、その他にもたくさんの方がサポートしてくださっているからであり、その方々への感謝を忘れず、恩返ししていきたいです。高校生の時の部活動は生涯に残り、よき思い出になると思います。だからこそ、たくさん喜び、たくさん笑い、たくさん泣き、将来自分たちが胸を張ってあの時頑張れたと自信をもって言えるような活動をしていきたいです。ハンドボー

ル部の活動を通じて学んだこと、教えてもらったこと、育ててもらったこと、経験させてもらったことすべてを活かし「人生笑顔で」過ごしていきたいです。

●男子テニス部  
「僕たちのチーム」

2年2組 吉田 光希

僕たち男子テニス部は1ペア県大会出場することが出来ました。僕たちは、「団体戦、個人戦両方で県大会出場」という目標を掲げて日々部活動を頑張っています。テニスという競技は個人戦と思われがちですが、プレイこそ2人や1人ですが試合での応援や日々の練習の雰囲気の大切さなどからチーム戦だと思っています。自分のペアとの信頼関係や、連携などもとても重要なことです。1球1球の球をどこにどうやって打っていくことの話し合いや、2人のゲームの展開の仕方、ペアがミスした時のケアなどコミュニケーションも重要です。自分勝手な行動はチームの雰囲気を悪くし、ペアとの信頼関係も薄れてしまいます。なので常にチームのみんなに思いやりの心を持ってプレーしていくことが重要だとわかりました。練習では、トレーニングやメニューを考え、積極的にアドバイスを合いチームのみんなと切磋琢磨し、成長して来ることが出来ました。それでも、上手く試合が展開できなかったり、思った通りに行かなかったりすることも沢山ありました。それをチームの仲間と何度も乗り越えて来たからこそテニスが一段と強くなり、チームの仲もより深まって来たと思えます。このテニスという競技を通して



僕は、思いやりの大切さ、仲間の応援の心強さ、そして勝利を掴み取る嬉しさを味わいました。僕たち2年生は、あと数ヶ月で引退です。「団体戦、個人戦共に県大会出場」という目標を実現するため、もっと上手になるためにはどうすればいいかしらっか考えて練習をして、チーム全員で勝ちを掴み取りたいと思います。

●女子ソフトテニス部  
「1つの区切り」

3年2組 國居 凜

私の高校生活の目標は「部活動で県大会に出場すること」でした。ですが、この目標を達成するための道のりはそう甘くありませんでした。初めの頃、ソフトテニスは個人競技だから、自分だけが努力をすればいいと思っていた私は、周りなんて関係なしにただ自分だけの世界でテニスをしていたんです。この考えでテニスをしていた頃の結果は、何一つとして目標には届いていません。この考えを大きく変えるきっかけになったのは、チームメイトの存在です。ソフトテニス部に所属した当初、部員は30人以上いて、それぞれが自身の目標を持っていました。その中から私と同じ目標を持つ子達と出会い、目標に向けてお互いに高めあえたことが、自分だけの狭い世界でテニスをすることから、同じ目標を持っている子達と一緒に高めあうという広い世界でテニスすることへと変わっていききました。この変化が私自身の成長に繋がりました。考えが変わったことにより、日頃の部活動の中でも、視野を広げ、周りをみる力、そしてお互いに高めあいながら、テニスを楽しみ、努力する力というものを培うことが出来ました。また違う目標を持つ子達と、チームメイトとして、お互いを尊重し合うことで、最終的には私の目標であった県大会に出場することが出来ました。県大会では、思うようなプレーができず苦しい場面もありましたが、仲間の声援に背中を押され、

自分の力を最大限発揮することができました。結果的に目標であった県大会出場を果たし、これまでの努力が報われた瞬間は、何とも言えない達成感で胸がいっぱいになりました。目標を達成し、ここまで成長することができたのは、チームメイトだけでなく、顧問の先生方や家族の支えがあったからこそです。やはり、1人で何かを成し遂げることは難しいため、部活動に限らず、これからの人生においても色んな人と支え合いながら生活していきたいです。

●女子バスケットボール部  
「仲間」

2年2組 宇佐見 統子

私たちが女子バスケットボール部は、県大会で戦っているチームという目標に向かって、日々練習をしてきました。練習では、県大会に出場するチームのレベルとやり合えるように、強度や質にこだわってやってきました。練習で失敗した時も、失敗したところからやり直したり、顧問の先生が会議で不在の時も、自分たちで声を出して質を高めようとしていました。私たちは去年、県リーグに残留することが出来ました。それは、私たちの能力だけではなく、それらの小さな積み重ねが、このような結果を導いたのだと思います。県リーグ前半戦では、先輩に頼りすぎた面がありました。それでも先輩は「大丈夫だから」と声をかけてくれました。また、私が上手くいかない日が続いて、挫けそうになった時は、励まし、支えてくれました。本当に感謝しています。新チームになってからは、今まで先輩が引き継いでくれた、強度と質にこだわること、後輩への気遣いを忘れないことを意識して、練習や試合を行っていました。新チームになってすぐは、自分のことに精一杯で、周りに目を配ることが出来なかつたり、強度や質を高めて練習しても、なかなか結果が出なかつたりしました。それ



でも、めげずに自分たちが今できることを考え、チームで沢山話し合いをしました。惜しくも県リーグに残留することはできなかったのですが、9月、10月のウィンターカップ予選では二次トーナメント(県大会)に進むことができました。経験を積み中で、試合中に自分たちのバスケットボールスタイルが崩れている時間が少しずつ増えていったり、自分に余裕が生まれてきて、味方に声をかけることが出来るようになったりしました。私たちは他のチームと比べて、個人の能力がそれほど高くなく、スーパースターのような選手もいません。だからこそ、仲間と共に協力して、チームでバスケットボールをすることを大切に、最後の大会で良い結果を出せるようにしたいです。

●水泳部  
「One for all, all for one」

2年3組 浅野 翔伍

水泳部での活動は僕にとって単なるスポーツではなくそれ以上の意味を持っています。それは、仲間と共に成長し、絆を深める貴重な経験の場であることです。水泳は個人技である一方で、チームとしての一体感や協力が求められるスポーツでもあります。そして水泳は得点性のスポーツと違い、タイムが100分の1秒単位で出るので自分の成長を感じやすく、とてもモチ

●ブラスバンド部  
「仲間の存在」

2年6組 坂井田 絢香

私たちブラスバンド部は、座奏で東海大会A編成、マーチングで全国大会出場を目標に活動しています。昨年は、座奏は県大会で金賞、マーチングは東海大会で銀賞を受賞し、目標としていた結果には惜しくも届きませんでした。頑張っているのに、なぜ結果に結びつかないんだろうと後ろ向きな気持ちになってしまいうこともありました。周りを見渡してみると、悔し涙を笑顔に変えて、前向きにさせてくれる



仲間がたくさんいました。誰かが落ち込んでいけば、すぐに駆け寄り励まし合います。これが当たり前のようにできる私たちの関係は、何よりの宝物だと思いません。頑張ったからと言って、その努力が必ず身を結ぶ訳では無いですが、そこまでのプロセスや本番を通じて得た経験を、次に活かすように活かすか、行動をどのように変えていくかが出来るかが、私たちがとってとても大切なことだと考えています。来年度こそは、目標を達成し、嬉し涙で大会を終えられるよう、努力を惜しまず、1日1日を大切に頑張ります。毎日みんな集まって練習ができること、大会に出場させていただけると、地域のイベントや行事で演奏させていただけること。どれも当たり前前のことではありません。私たちが、多くの方々に支えていただき活動できています。これからも感謝の気持ちを忘れず、多くの方に応援していただけるバンドになれるよう頑張っていきます。

●美術部  
「実験中めまじ」  
2年1組 村上 雪華

私にとっての作品は、「実験」に近いと思っています。この考え方になった基となったのは、部活動の数ある出来事から反映されたものです。私の木高に行く理由はこの美術部。中学生



体験入学から知った木高の美術部は、私にとって宝庫でした。自分の好きなように作品を作る環境と中学の授業では物足りなかつた私にとっては、とても咬る場所でした。実際、この部活に居たいと思った当時の私の直感に正しく、入ってから、多種多様な作品を作る仲間とそれが出来る環境はとても心地のよい場所でした。しかし、そこでの私の作品は正直力不足な所が多かったです。それを初めての展示で痛感しました。私の表現したいものの具現化が出来ない。肩を並べられるような存在では無い。ここで私の足は立ち止まりました。変化が現れ始めたのは、1年生での夏合宿で、4日間で1枚の絵を描くという課題でした。場所を決めて下書きをして、色をつけようと考へて下書き、ふと、楽しくやろうと好奇心が湧き、景色にはない原色の青や黄をキャンパスに塗り始めていました。直感で始まった描き方ではありませんでしたが、完成した作品を再度見て、私の描き方はこれで良かったのかと思いました。今までは勝手にラインを引いて、制限をして作っていたと気づき、そこからの私は色だけではない他の視点からも自由に作品を作るようになってきました。次の作品のヒントを今作っている作品で得て試行してみる。また、やった事のないものやってみる。このような変化が生まれ、実験が今にまで続き、それに加えて、部活の仲間の考え方や、作品による刺激もあつたから、県大会進出に繋がったと思います。私の作品には統一性がありません。言い換えれば、多種多様なやり方で作ることができます。それはこれか

25回生 大内秀一  
還暦の今年7回目のクラス会を十一  
年ぶりに七月十四日開催いたしました。  
た。恩師をはじめ沢山の方にご参加を



10回生 土本光一  
コロナ禍で長く開催を断念してお  
りましたが、今回やっと5年ぶりに開催  
でき、参加者20名全員が再会を大変喜  
んでおりました。  
75歳にもなれば全員の共通認識は当  
然「健康第一」ですが、今後は毎年開  
催することが困難な状況になりますの  
で、取り敢えず2〜3年後を目標にし  
て77歳の「喜寿を祝う会」を行うこと  
一同の理解を得ました。

同窓会報告  
らの私の作品の幅を広げ、苦手な表現  
をするための方法につなげてくれるも  
のです。私の部活に費やした時間は挑  
戦的です。それができたこの部活と仲  
間には、とても価値のあるものだと  
言えます。

70周年に想う  
祝、創立70周年！木曾川高校よ、若  
人を支え育む永久（とこしえ）の学舎  
舎たれ！  
11回生 坂倉富行  
創立70周年おめでとうございます。

70周年に想う  
頂きました。私達は商業科の7組で、  
三年間担任の先生と男子は変わらず一  
緒で、女子だけ毎年入れ替わるという  
クラスでした。その為だと思いがすが  
担任・男子の絆は今でもとても強いも  
のになっています。  
クラス会はとてとても良いもので時を一  
気に42年前の頃に戻してくれれます。女  
性には旧姓で呼んでしまうのが普通に  
なつてしまっています。でも、年金や  
病気、子供や孫の話題が多くなり最近  
の内容になつてしまつていました。  
楽しい時間はとても早く過ぎてしま  
い開催時間が足らず殆どの方が二次会  
への参加となりました。今はLINE  
などで連絡が以前より取り易くなりま  
したが、この素晴らしい級友との親交  
が未永く続いて行ける事を切に願うば  
かりです。



愛知県立木曾川高等学校  
同窓会役員

会長	玉腰 誠治 (11回生)
副会長	坂倉 富行 (11回生)
書記	尾崎 敏治 (11回生)
	尾崎 敏子 (29回生)
書記	湯川 輝男 (13回生)
	湯川 輝男 (13回生)
計	池田 敏樹 (48回生)
	池田 敏樹 (48回生)
監査	中島 博信 (29回生)
	中島 博信 (29回生)

編集後記  
持ち味を活かす。  
人にはみなそれぞれに違った持ち味がある。一人として全く同じということはない。  
だから偉人のやり方をそのまま真似るといふのではなく、それにヒントを得て自分の持ち味に合わせたあり方を生み出さなければならぬと思う。  
人生のヒントになればと思います。松下幸之助の1日1話より。  
35回生 池田享史

益々のご発展をお祈り申し上げます  
19回生 木田川隆  
70周年おめでとうございます。生徒の皆様の夢が満願成就となりますよう心よりお祈り申し上げます  
29回生 湯川育子  
歴史ある母校の方々の活躍を目的することも多く、感銘を受けています  
29回生 田口博信  
ますますの発展と、素晴らしい未来を築いていけることを願っています  
29回生 木村晃寿  
70周年を節目にますます発展されることを心より祈念いたします  
29回生 宮部敏樹  
開校70周年おめでとうございます。貴校の益々の発展と、教職員生徒皆様の健康と御活躍を祈念しています  
35回生 池田亨史